

Xバンドレーダー基地の米兵・軍属が福知山で実弾訓練 福知山が府内で二つ目の米軍基地に!?

私たちは、以下の理由で米兵・軍属の訓練に反対です

- 米軍の射撃訓練は、武器・弾薬も格段に強力で、標的を撃つだけでなく「テロリスト制圧」のような訓練も含まれ、近隣への影響・不安は段違いです。
- 定期的な利用は実質的な「府内二つ目の米軍基地」の設置です。自衛隊基地の米軍基地化はごめんです。
- 軍人・軍属が公私問わず頻りに市内を行き来することになり、事件・事故の不安、市民の安全にとって憂慮すべき状況になりかねません。
- 軍人・軍属はバスで移動し、武器・弾薬は別車両により運搬するとしていますが、現在の米軍基地から武器・弾薬を外に出すこと自体が危険です。



【写真】キャンプ富士での訓練
富士に向かって的を撃つ米兵

丹後の米軍基地に配属された米兵らの射撃訓練は、今までは、写真のように富士の演習場でおこなわれていました。この実弾を用いた射撃訓練が、今年 11 月から、福知山の自衛隊施設でおこなわれようとしています。



福知山射場の様子(2005年5月20日)
改修された縮尺射場での射撃始め

京丹後市経ヶ岬の米軍基地とは

2014年10月、アメリカは、京都の最北端・京丹後市に米軍基地を設置しました。この部隊は、ハワイに司令部を置き、「米陸軍経ヶ岬通信所第14ミサイル防衛中隊」とよばれています。高性能の「Xバンドレーダー」が設置され、米軍人・軍属約160名が配属されました。

今年8月、防衛省は、京都府と福知山市に対し、京丹後市の米軍Xバンドレーダー基地に配属された軍人と軍属の実弾による射撃訓練を、今年11月から、福知山の陸上自衛隊射撃訓練場で実施したいとする米軍の意向を伝えました。

射撃訓練は、年間20日(年4回、一回5日間)、1回に50人が参加する(実際に訓練するのは1日当たり20~30人)としています。

日本政府は、日米合同委員会を開催し、福知山の自衛隊施設を日米の「共同使用施設」に指定する手続きを進めたいとの考えを示し、同時に、「地元の理解と協力が不可欠」として、早期に理解を得たいとしています。

市民の安全にかかわる事態に、福知山市長や京都府知事の姿勢が問われています。

軍属＝傭兵



【写真】京丹後市にある「米軍経ヶ岬通信所」遠景

基地を警備している軍属は、過去にイラクで市民を多数殺傷し大きな問題を起こした民間の軍事会社



【写真】自動小銃を前に構えた威圧的警備（経ヶ岬通信所）

経ヶ岬は、住民が住む地域から金網を隔ててすぐのところに基地があります。警備は、小銃を前にかまえ、いつでも対応（射撃）できる姿勢で行われています。こうした状況は、全国の米軍基地でも、京都だけとされています。

銃をかまえた警備は威圧的で、近隣の住民からは「警備員がライフルを構えているのを見るだけで恐怖を感じる」といった声が上がっています。

京丹後市・経ヶ岬の米軍基地では、警備は、民間の軍属が対応しています。シェネガ社の「傭兵」です。経ヶ岬には今年2月の時点で66人いると説明されています。

シェネガ社は、当初は「シェネガ・ブラックウォーター・ソリューションズ」社と言い、イラクで米軍の警備などを請け負い、市民を多数殺傷するなど、大きな問題を引き起こした企業です（現在の社名は「シェネガ・トータル・アセット・プロテクション」）。

これら軍属も軍人同様、仮に事件や事故を起こしても、「公務中」であれば、日本側に一次裁判権がないなど、在日米軍の特権を定めた「日米地位協定」が適用されます。

「射撃訓練」とは？



米軍キャンプ富士での訓練「Fuji Warrior」の実態

現在、経ヶ岬の軍人・軍属は、米軍キャンプ富士で射撃訓練を行っています。キャンプ富士での「Fuji Warrior」という訓練では、紙の標的を撃つだけの射撃訓練ではなく、実弾は撃たないテロリスト制圧などの実戦訓練「Active Shooter」（SWATのような特殊部隊がやる訓練・演習）も行っています。基地の司令官は「（ミサイル防衛という）重要なミッション」を帯びているとし、きわめて重要な施設との位置づけから、警備の兵力として民間軍事会社に小銃を持たせ、いつも緊張感が張りつめています。

ビラ発行団体の名称

住所

連絡先